

第100号 通巻18巻第3号
1998年9月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎077-585-4397

〒524-0212
守山市服部町2250番地

木 偶 の 発 見

1. 下之郷遺跡28次調査（下之郷町）

下之郷遺跡の調査は予定範囲の約半分を終え、新たに集落の内部の調査に着手しています。現在は遺構の検出作業中であるため、詳しい報告はできませんが、これまでにたくさんの柱跡や溝などが見つかってきています。今後調査が進めば、弥生集落内部の様子が徐々に明らかになってくると思います。そこで、今回は先に調査していた環濠から発見された遺物について紹介したいと思います。

さて、この写真に写っているもの、皆さんはいったい何だと思えますか・・・？



大きさは長さが約17.2cmで、直径 6.5cm程の丸太を半分に割って作られています、下の方が破損していて、全体の形はわかりません。

よく観てみると、**やや？** 目がある！口がある！そして眉毛までも・・・。人形だ〜。

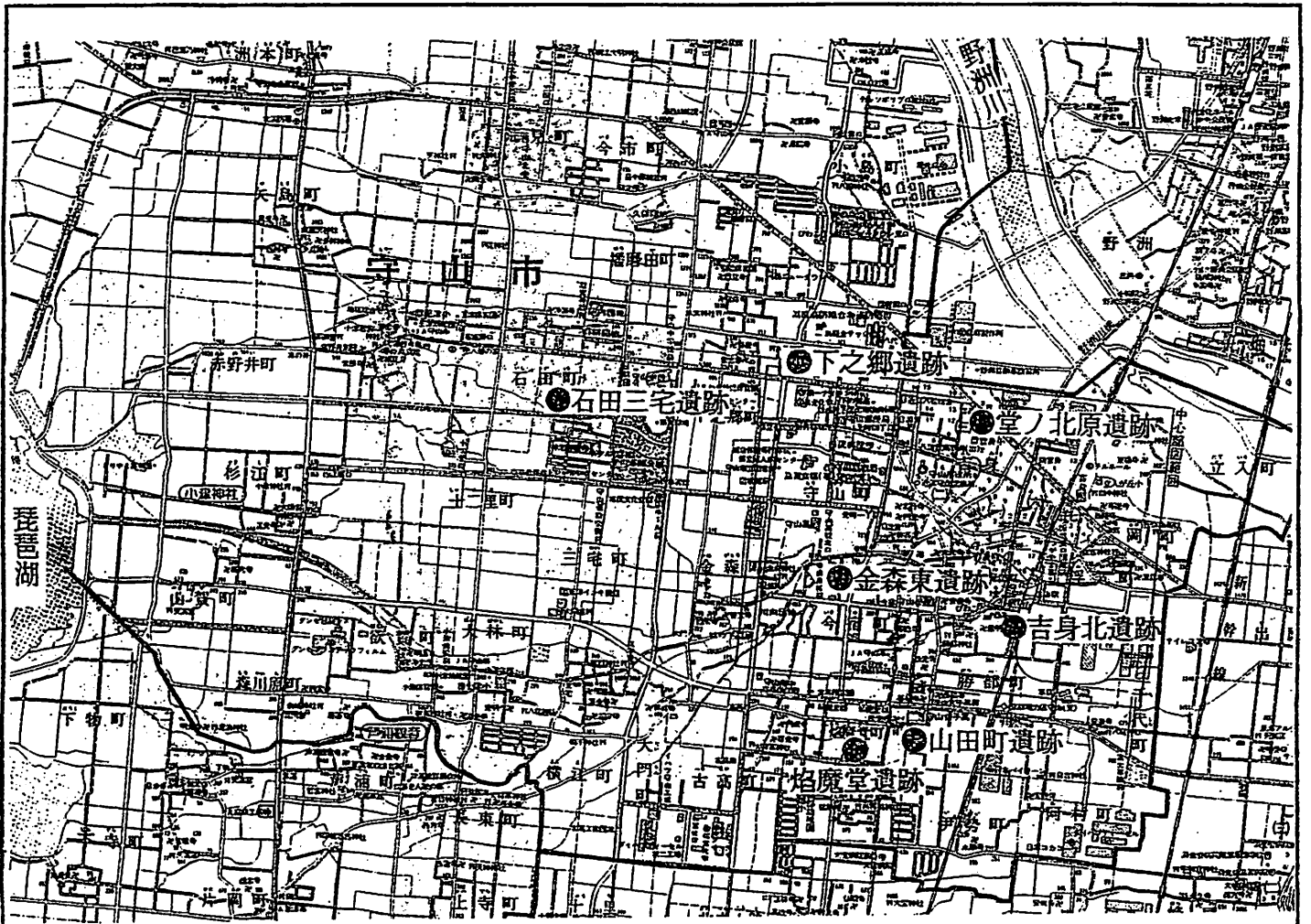
この写真の遺物は現在調査している下之郷遺跡の内環濠（6条発見した環濠のうち一番内側に位置しているもの）で発見されたもので、たくさんの木製品や土器などと一緒に出土しました。出土した人形が埋もれた時期は、下之郷遺跡の中でも古い段階（IV期の初め）のもので、今から2100年程前にあたります。この木の人形は、実は「木偶」と言われるもので、県内ではこれまでに弥生時代の遺跡から7例程見つかっています。「木偶」はお墓から見つかる例もあり、祖霊を祀ったり、葬送の儀礼に使用されたものではないかと考えられています。



出土した木偶

今回「木偶」が発見された場所は、ムラと外界の境界にあたります。もしかすると弥生人たちは、そうした場所で祖霊を祀っていたのかもしれない。
(川畑)

☆ 「乙貞」は昭和56年1月発行以来、100号を迎えました。次号特別号では、これまでに掲載した記事の中から、特に注目された遺跡調査などを振り返りたいと思います。



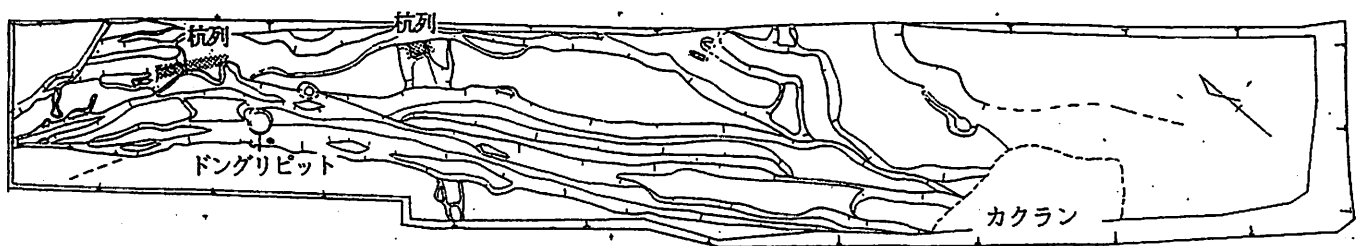
発掘調査位置図

2. 石田三宅遺跡の調査 (石田町)

石田三宅遺跡の調査は8月中旬で約1000㎡が終了しました。この調査地からは6条の川跡が見つかりました。前号で報告しました平安時代の川跡以外は古墳時代の川跡と考えられ、低地であるこの場所に位置を変えながら川が流れていたようです。また、堰（^{せき}灌漑^{かんがい}などを目的に水量を調整する施設）の可能性が考えられる杭列^{くい}が川の合流地点2ヶ所で見つかったほか、ドンダリの入ったピット状の遺構も川底から見つかっています。アク抜きのため、水にさらしていたのでしょうか。

これから、東に向かって調査を進めていく予定です。

(藤原)



石田三宅遺跡遺構平面図



3. 吉身北遺跡18次調査（勝部町）

調査が7月末で終了しました。前号で報告しました11棟の^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居は、SH-1からSH-4までの住居が5世紀後半に、SH-5からSH-11までの住居が6世紀半ばに建てられたことがわかり、居住域が北東から南東へと移動していったことが推測できます。またSK-1からは多量の^{かっせき}滑石の^{はくへん}剥片、^{うすだま}白玉、^{みせいひん}白玉の未製品、^{はくせんひん}製作途中の破損品などが出土しました。周辺の調査では滑石を用いた玉作りの^{こうぼうあと}工房跡が見つかることから、この遺構も玉作りに関係した遺構であることが推測できます。 (大岡)

4. 山田町遺跡1次調査（勝部町）

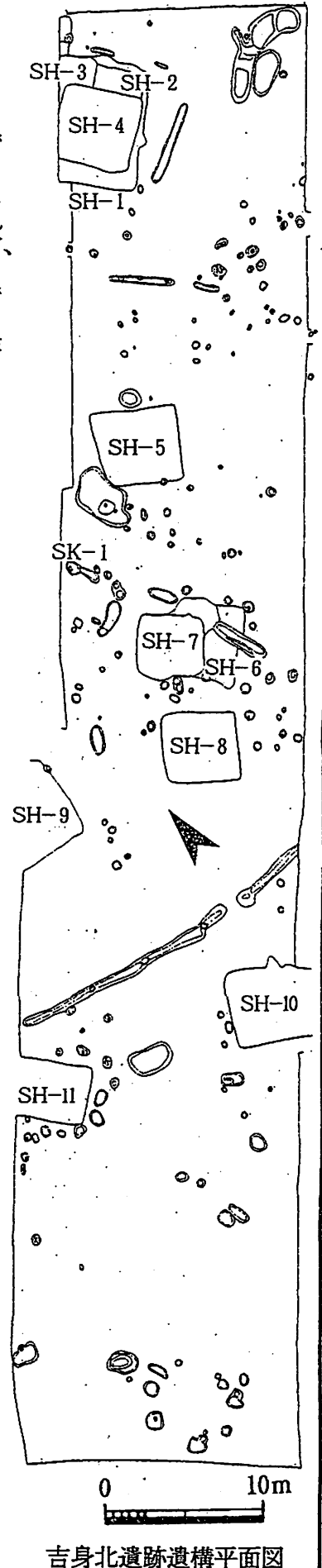
宅地造成工事に先立ち、8月中旬から調査を実施しています。この遺跡は確認調査によって新しく発見された遺跡で、^{こざめい}小字名をとって「山田町遺跡」と名づけられました。これまでのところ、弥生時代中期の^{どこう}土坑や落ち込みなどから多量の土器が出土しています。 (小島)

5. 金森東遺跡12次調査（守山町）

平成8年度から開始した金森東遺跡の調査も、いよいよ最後の調査区に入りました。ここからは井戸2基(SE-1、2)、^{ほったてしらたてもの}掘立柱建物1棟(SB-1)竪穴住居9棟(SH-1～9)などが検出されています。SE-1、2はともに^{すば}素掘りの井戸と考えられ、SE-2には埋没の過程で弥生時代後期末の土器が大量に廃棄されていました。SE-1にもほぼ同じ時期の土器が廃棄されていましたが、SE-2より若干古い時期の土器とみられます。

SB-1は2間×3間の規模で、井戸が埋没した後に建てられたものと考えられます。ただ、柱穴の中から出土する土器が細片であるため、詳細な時期は今のところよくわかりません。

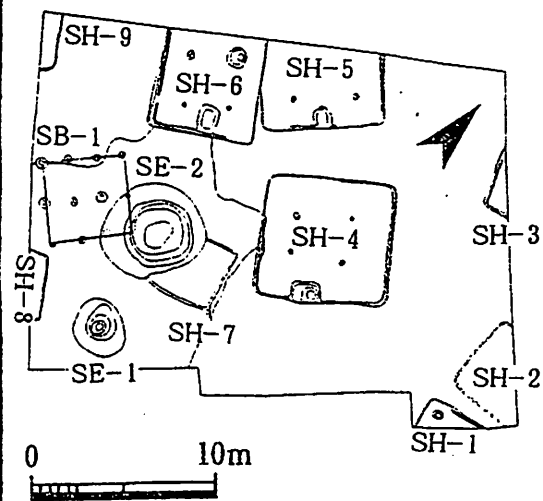
竪穴住居の内SH-6、7は^{かまど}竈を持つ住居で、出土した土器から古墳時代中期頃の年代が考えられます。SH-6は北東辺中央付近に竈が築かれており、竈内から^{どせいしきやく}土製支脚が1点出土しました。また、SH-7は東側コーナーに竈があり、そこから東側に向かって^{えんどう}煙道がのびています。他の住居については残存状態が悪く、出土土器も少ないため、具体的な時期は明確ではありませんが、おおむね古墳時代前期から中期の^{はんちゆう}範疇におさまるものと考えられます。 (小出)



6. 堂ノ北原遺跡の調査 (吉身三丁目)

店舗建築に先立ち、約 420㎡を対象に調査を実施しました。その結果、溝4条とピット3穴を検出しました。このうち、溝4からは古墳時代前期とみられる土師器の小壺が出土し、溝4からは古墳時代後期の須恵器の杯身つきみが出土しました。

周辺での調査例は過去1例あるだけで、遺跡の状況は判然としませんが、今回の調査によって周辺に古墳時代の集落が広がっていることがわかりました。(畑本)

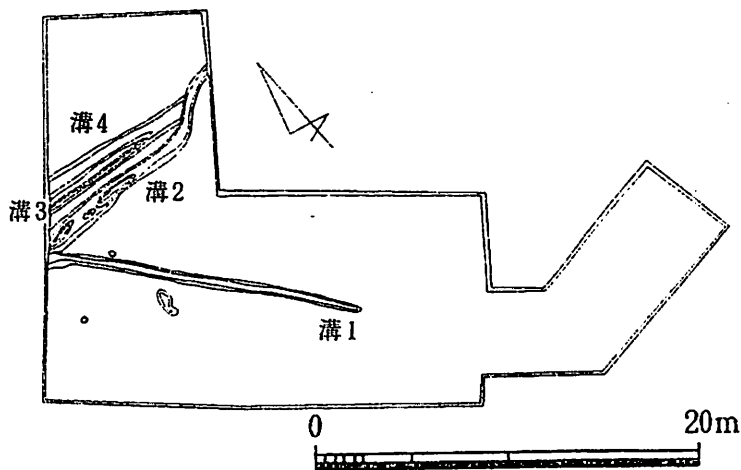


金森東遺跡遺構平面図

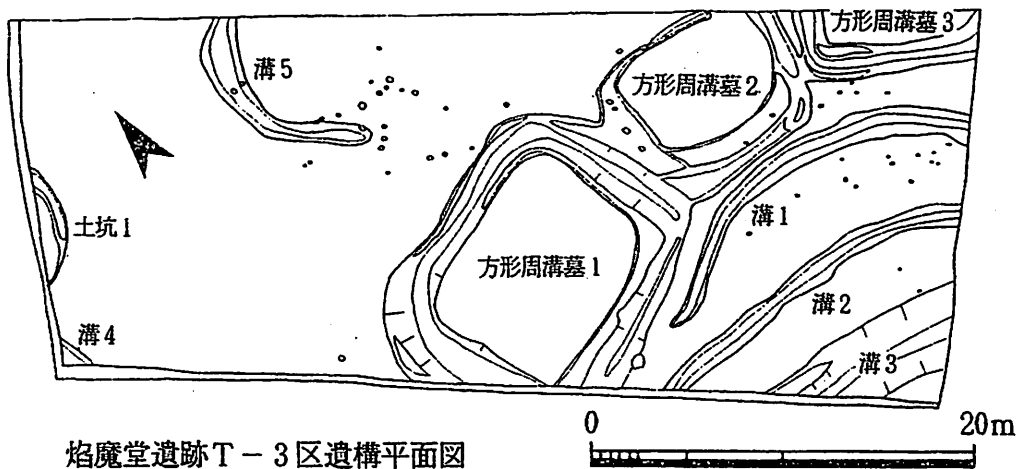
7. 焔魔堂遺跡の調査 (焔魔堂町)

現在、T-3区の調査が終了しました。この調査区からは方形周溝墓3基と溝5条、土坑1基などが見つかりました。遺構の時期は方形周溝墓1～3と溝1・2が弥生時代後期の終わり頃で、溝3が古墳時代前期頃と考えられます。T-1・2区でもほぼ同じ時期の方形周溝墓が検出されておりさらに墓域が北側に広がっていることがことが確認されました。

(中村)



堂ノ北原遺跡遺構平面図



焔魔堂遺跡T-3区遺構平面図

【埋蔵文化財センター歴史入門講座のお知らせ】

埋蔵文化財センターでは下記のとおり歴史入門講座を開催しています。詳しいお問い合わせは市立埋蔵文化財センターまで。(☎585-4397 有線(速)38112)

☆ 日程および講座内容 ~全体テーマ 『遺跡から何がわかるか』 ☆

- 第4回 9月19日(土) 午前10時~12時 「奈良時代の遺跡調査」
- 第5回 10月16日(金) 午前10時~12時 「遺跡発掘現場の見学」
- 第6回 12月19日(土) 午前10時~12時 「中世の遺跡調査」